

資料編

- (1) 取組みイメージ
- (2) 活動展開イメージ
- (3) 学集会ニュース

（1）取組みイメージ

第7回及び第8回学集會では、具体的な取組みについて、参加者意見は、下記のとおり。

（賑わい）生活にうるおいを与える魅力的な店舗



【駅前】

- ・記念日や仕事帰りに遅くまで利用できるカフェや飲食店。

【商店街】

- ・友人や知人と楽しく会食、買い物など生活の中で飲食できるお店。
- ・惣菜など持ち帰りできる手ごろな値段のお店。



【駅前・商店街】

- ・シニア世代がちよっとカッコつけられる、大人がデートできるお洒落なお店。屋前から飲食できるお店。商談後にジャズを聞きながら飲食を楽しめるお店。
- ・神戸にはジャズライブレストランがあり、ゆっくり音楽を聴きながら飲食を楽しめる。ミュージックチャージも安く、多世代の方に利用されている。修学旅行生も訪れ、プロの音楽に触れる機会を得て、大人になって再訪する人もいる。ブランド力があり、お客・ミュージシャン・店舗にとって良い関係性を築けている。

（賑わい）日常と非日常に出会える屋内広場



【駅前】

- ・天候に関わらず、音楽やダンス、演劇や非日常が味わえるイベントができる。
- ・イベントがないとき、ゆっくり飲食できる憩いの広場。

【駅前・商店街】

- ・子供を見ながらゆっくりできる遊具のある広場。
- ・音楽を聴いてリラックス。カフェが楽しめ発表会や販売などができる広場。

（賑わい）キッチンカー等による賑わいや回遊性の創出



【駅前・商店街】

- ・キッチンカーの色々なお店があれば、働いている人も駅前を訪れた人も楽しみながら利用でき、ランチが楽しめ賑わいも生まれる。
- ・年齢に関係なく利用できる。
- ・市役所周辺は飲食店が少なく、需要があるのでは。

（憩い）自然を感じられ思い思いに過ごせる屋外広場



【駅前】

- ・駅と商店街が1本の通路で繋がり、通路沿いに広場がある、そんな空間がいい。
- ・駅前は敷地が限られているので、駅前再整備でビル屋上に芝生広場がほしい。例えば、星空を観る企画による幅広い世代の交流や、都市に居ながら憩いを感じられる。



【駅前・商店街】

- ・広場を利用する各人が季節を感じたり、休憩や読書、イベントに参加。音楽鑑賞や音楽を奏でる、友人との待ち合わせなど、思い思いに広場で過ごす。

（憩い）駅前や商店街での魅力ある憩いの空間



【駅前】

- ・お茶を飲んだり休憩。
- ・駅前広場でライブ音楽などを聴く場所。



【商店街】

- ・学校帰りに買い食いや遊べる場所。
- ・買い物途中で休憩できる場所。
- ・商店がお休みの時に1日楽しみながら趣味の販売ができる場所。
- ・アーティストにより、商店街のシャッターにアートを施すと閉店後の賑わいが生まれる。さらにそのアートが隣のシャッターに連なりドラマ（ストーリー）になると面白い。
- ・まち中で音楽を演奏しながら気軽に楽しめるミニイベント。



【駅前・商店街】

- ・買い物などの目的がなくても、お話ししたり休憩できる場所。
- ・就学児童以上の子供たちが交流し、遊んだり安らげる場所。
- ・歩くだけで気分が良くなる。時間や季節を意識できる場所。
- ・商店街を歩いていると疲れる。イスや机のある休憩所があれば利用者は多い。併せて隣でバザーやマルシェができたり、出店料が無料であれば高齢者でも出店できる。



（子育て）地域ぐるみの子育て支援



【商店街】

- ・子育てサロンで放課後や休日にお手伝いや子供用のイベント。

【駅前・商店街】

- ・未就学だけでなく、もう少し幅広い年代が利用できる街中カフェや子供用のイベント。



（景観）おしゃれな統一感のある街並み



【統一感のある街並み】

- ・観光客が訪れ、歩くだけでも楽しくなる街並みを買い物しながら散策。

【駅前に緑豊かな空間】

- ・憩いや飲食ができる空間。
- ・園のお散歩でいけるような空間。



【おしゃれな商店の街並み】

- ・カフェ、雑貨めぐりや服などのショッピング、歩くだけで気分が良くなる街並み。

（２）活動展開イメージ

『思い描く暮らしの姿』及び『実現するために必要な取組み』について、第４回、第８回及び第９回学集会参加者からの意見は下記のとおりです。

①まちづくりの基本的な考え方

- ・子育て世代、若者、大人などの全世代に対し、これまで地域に無かった新しい機能を付加し、魅力を増やすことによってまちを生まれ変わらせる。名付けるならば『まちなかりボーン』。
- ・駅前を中心市街地に開かれた空間にし、まちの資源や生活者の視点を大切に、色々なルートで元茨木川緑地までの回遊性を創出する。
- ・地域にあるものを活かし、商店街に人を導く。駅前は人を集める拠点になり、商店街は人を誘うワクワク感や賑わいを創出し、駅前から中央公園までをつなげる。

②駅前での活動展開イメージ

- ・屋内イベント広場や園庭の充実した保育園、魅力的な店舗等を備えた都市のコアを形成する。
- ・まちの案内所を設置し、魅力発信を行う。
- ・ジャズイベントの開催やサークル活動など多目的な活動ができる屋内イベント広場を設ける。
- ・イベントが開催できるデッキを作り、デッキから商店街に人を導く。

③商店街での活動展開イメージ

- ・にぎわいの中心が阪急本通商店街になるよう歩行者専用道路化し、テーブルやイスを置き、ナイトバザールや音楽などのイベントを開催する。
- ・茨木にぎわい亭と駐輪場に高齢者や大人向けのにぎわい拠点をつくる。
- ・商店街は生活者の視点がコンセプトであり、人を呼ぶ仕掛けとして、歩きたくなる目立つフラッグなどが必要である。商店街で利用できるカートを設置し、買い物の利便性向上を図る。
- ・資源である古民家を再生し、面で魅力づくりを行う。
- ・アーケードを屋内広場に見立て、イベントを実施し、魅力的な店舗と商店街の魅力を発信する。
- ・子どもや高齢者が利用でき、拠り所となる店舗などを商店街に設ける。
- ・外に開いている店舗は利用者がワクワクする。

④中央通りでの活動展開イメージ

- ・一方通行化し、元茨木川緑地と連動したアートと緑の拠点づくりを行い、魅力あるエリア形成。
- ・一方通行化し、ループバスを走らせ、歩行者が快適に通行できる空間を整備。おしゃれな通りにすることで、魅力的なお店を出したくなる通りにしたい。
- ・期間限定で歩行者天国にし、キッチンカーを並べるイベントを開催。市民会館跡地エリアや元茨木川緑地にもキッチンカーを並べ、市の隠れた名店のキッチンカーを出し、店のPRを行う。
 - ・イベント時は、まちづくりを実践する人の手伝いも必要。

(3)学集会ニュース

阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会を開催後、当日の内容を多くの方と共有するため、毎回ニュースを作成しました。次頁以降、第1回から第10回までのニュースを掲載します。

第1回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2018年9月18日 発行

2018年8月30日に「第1回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMIにて開催しました。

当日は、阪急茨木市駅周辺の商店会や自治会、ソシオ茨木管理組合、茨木市関係各課、総勢16名にて阪急茨木市駅周辺の現況や課題等について意見交換を行いました。

また、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にご参加いただき、他都市の取組などについて講演をいただきました。

○ 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会とは？

阪急茨木市駅周辺の商店会や自治会、ソシオ茨木管理組合、茨木市関係各課などが集い、阪急茨木市駅周辺の特徴や課題、各組織の取組状況を共有するとともに、阪急茨木市駅周辺の将来像を展望・共有し、今後のまちづくりへの展開に資することを目的とした会です。

○ 話題提供

本会の協力者である(株)大林組から、茨木市や中心市街地の現状、中心市街地に関する市民アンケートの結果、阪急茨木市駅周辺の課題についての説明がありました。

阪急茨木市駅周辺は「ポテンシャルは高いが活かせていない」「駅前広場などに課題があること」などを参加者で共有しました。

○ 久教授からの講演

久教授から、阪急茨木市駅周辺についてのコメント、商店街の活性化に成功した長浜や彦根の事例紹介、今後のまちづくりのポイントなどについてご講演いただきました。

【講演の概要】

- ・ 周辺へのつながりを意識したデザインが重要である。個々の建替え時に全体の方針を作っておけばつながっていく。
- ・ まちの活性化に成功している事例では、コンサル任せや交付金頼みではなく、自分たちで資金を集め、当事者意識をもって取り組んでいる。
- ・ 商店街の問題は、全体のマネジメントの欠如である。
(テナントミックスやゾーニング、子供の遊び場やベンチなどの共用部の作り方など)
- ・ 今後のまちづくりのポイントは、「様々な方と時間をかけて話し合い、合意形成を図る」「当事者意識をもち、行動につながる」「まずは元気な人がつながる」。



○ 意見交換 ～ご意見のいくつかを紹介します～



阪急茨木市駅周辺の可能性をどう見ているか？

ソシオ

商業者の頑張りください。

中心市街地の人口は増加しており、この方々をどう顧客として取り込めるかが課題。



久教授



自治会

商店街は日が暮れるとシャッターが閉まり、人通りがない。
もっと楽しく買い物ができれば。

早い時間で店が閉まっていると、歩いていても魅力がなく、歩かなくなる。悪い方向の循環になっていないか。回遊性を上手く演出し、消費者も行動していけば、可能性はまだまだある地域。



久教授



商店街

商店街も過渡期。店主の高齢化が進んでいる。
ヤル気のある方が積極的に入り循環すれば良くなるのでは。



自治会

会の主旨の共通認識が必要。位置づけをはっきりしてほしい。



学集会は阪急茨木市駅周辺を取り巻く状況が変わろうとしている中、皆さんと阪急茨木市駅周辺のまちづくりについて、フラットな関係で考えていこうという会です。



市

まずは各団体の代表者に会の主旨や目的を理解してもらい、今後は元気のある多くの方に参加してもらいたい。



久教授

○ まとめ（アドバイザー久教授より）

個店の活性化とまちづくりは運命共同体とも言えます。商業者が元気になることが地域の皆さんにとっても良いことであり、地域住民がそれを支えるという関係も大切です。色んな方が立場を変えて一つの運命共同体が出来ていけば良いと思います。

次回の学集会は10月17日（水）19：00～ @ローズワム5階

ワークショップ形式で阪急茨木市駅周辺の将来像を考えていきます。

学集會に参加される方は事前にご連絡ください。

連絡先：茨木市・市街地新生課 担当：三浦、参河（みかわ）

TEL：072-620-1821 FAX：072-620-1730

mail：shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

○ 参加者

○：出席　－：欠席

アドバイザー	近畿大学総合社会学部・久教授	○
商店会	茨木阪急本通商店街振興組合	○
	茨木市本町商店会	－
	茨木心斎橋商店会	○
	茨木中央銀座商店会	－
	ロサヴィア商店会	○
	茨木阪急東中央商店街	－
	茨木市駅東口商店会	○
	ソシオいばらき商店会	○
	ソシオ茨木管理組合	○
自治会	茨小校区自治会連合会	○
	本町自治会	○
	別院町自治会	○
	元町自治会	－
茨木市	市街地新生課	○
	都市政策課	○
	商工労政課	○
オブザーバー	中条まちづくり商店会	
協力者	ソシオ茨木事業パートナー等※ (株)ユーデーコンサルタンツ、阪急阪神不動産(株)、(株)大林組	

※ソシオ茨木事業パートナー等は、ソシオ茨木管理組合からの依頼により参加

第2回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2018年11月6日 発行

2018年10月17日に「第2回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

今回は前回のメンバーに加え、商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢22名の方に参加いただき、【阪急茨木市駅周辺をどんなまちにしたいか】をテーマにワークショップを行いました。

また、前回に引き続き、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にもご参加いただきました。

参加者の皆さんによる活発な意見交換が行われ、楽しく有意義な学集会となりました。

○ 久教授からの講演

久教授より、まちの活性化に取り組んでいる他市の事例を紹介していただき、成功の秘訣やワークショップで意見交換いただきたいこと等についてご講演いただきました。

【講演の概要】

- ・ 大阪市阿倍野区昭和町の事例紹介。エリアリノベーション（一軒一軒のリノベーションなど小さな取組みが集まることで、まち全体が変わっていく動き）とバイローカル（地域で買い物をしようという運動）を実践している。バイローカルで鍵を握っているのは、消費者の消費行動。
- ・ まちづくりは、暮らしをより良くするための活動の総体。様々な観点でいろいろな方が活動されているが、一つにまとめるとすごい力となる。一つの掛け声で力を合わせることも大切。
- ・ ○○が欲しいという結論ではなく、どんな暮らしがしたいか（現在・未来）、実現したい暮らしの姿をイメージし、実現するために必要なモノ・コトを考えることが大切。

○ ワークショップ

【阪急茨木市駅周辺をどんなまちにしたいか】をテーマに、「まちの特徴」「まちの課題」「実現したいまち」などについて4グループに分かれ、活発に意見交換しました。

最後は各グループの代表者に発表いただき、参加者の意見を全員で共有しました。



まちの特徴

- ・交通など利便性が高く、暮らしやすい・住みやすいまち
- ・まちに若い人（世代）が増えてきた。ママさんが喜ぶ店がある
- ・リノベーションしたカフェなど、魅力的な店・個性的な店が増えてきた
- ・中心部に駅や市役所、商店街等がまとまっており、利用しやすい
- ・地震をきっかけとして、防災の取組がすすんでいる
- ・地元意識が強い方が多く、三世代・四世代と仲が良い
- ・商店街が多い、イベントが多い、茨木神社など歴史がある、自然が近い

ポテンシャル

新たな魅力

便利

地域資源

まちの課題

- ・バスターミナルが混む、バス乗り場まで行きにくい・わかりにくい
- ・道路の渋滞、駐輪場が少ない、自転車マナーが悪い、歩道を安全に歩けない
- ・若い人や地域の人が集まる場所、ゆっくりできる場所、子供が遊ぶ場所がない
- ・駅から商店街までが分かりにくい
- ・商店街は元気がない、シャッター街、みんなで何かをやる元気がほしい
- ・駅前のソシオが老朽化し、まちがさみしい、賑わいがない
- ・土地が高い、家賃が高い

駅前広場
交通

広場

賑わい

実現したいまち

- ・休憩できる、憩える、多世代が交流できる、イベントができるなど、多目的に活用できる場所が欲しい
- ・渋滞解消、自転車・歩行者の安全
- ・駅～商店街、JR 茨木駅～阪急茨木市駅のつながりがあり、歩きたくなるまち
- ・駅前や商店街など中心地に人が集まり、賑わっているまち（平日も）
- ・安全・安心で多世代が楽しく、笑顔があふれるまち、住みやすいまち
- ・若い人が来てお店を利用してほしい、インバウンドの取り込み
- ・茨木神社や川端康成など地域資源を活かす
- ・地域交流、住民のネットワークがある、自分発信の人がたくさん生まれるまち
- ・北摂地域で競い合い、メディアを介して、まちの工夫をアピール合戦してはどうか

交通機能

回遊性

広場・交流

賑わい

※すべてのご意見はご紹介できませんが、上記以外にも様々な意見が出ました。

○ まとめ（アドバイザー久教授より）

今回は、皆さんが思い描くまちをどう実現していくか、その方法を一緒に考えていきたい。若い世代というキーワードが出たが、学生なのか、20～30代なのか、ターゲットを意識しながら、どういう暮らしをしたい・してほしいのかを考えることも大切。



次回の学集会は12月13日(木)19:00～ @ローズワム5階

次回もワークショップ形式で阪急茨木市駅周辺の将来像を考えていきます。

学集会に参加される方は事前にご連絡ください。

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

第3回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年1月15日 発行

2018年12月13日に「第3回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢15名の方に参加いただき、【思い描くまちの姿を実現するために阪急茨木市駅周辺をどうしていくのか】をテーマにワークショップを行いました。

また、前回に引き続き、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にもご参加いただきました。

参加者の皆さんによる活発な意見交換が行われ、楽しく有意義な学集会となりました。

○ 市内で行われている社会実験等の事例紹介

① 場を開く社会実験（茨木市）

開催期間：2016年度 11月～3月、2017年度 5月～11月

開催場所：いばらきスカイパレット、岩倉公園、阪急茨木市駅西口2階デッキ
(道路や公園での取組)

概要：市街地新生課が、公共空間を活用した取組を実施したいプレーヤーを募集し、管理部署との調整や手続き、周知などもサポートすることで、公共空間の活用に対するハードルを下げ、企画の実施に繋げ、潜在的なプレーヤーを発掘すると共に公共空間の活用のあり方を考える

取組。「てづくり市」や「音楽コンサート」「オープンカフェ」など様々な社会実験を実施。いばらきスカイパレットは、道路法上の道路であり、道路占用には公共性や無余地性の整理が必要。



てづくり市の様子(いばらきスカイパレット)

② 広場活用社会実験「IBALAB（イバラボ）」(茨木市)

開催期間：2018年8月～12月

開催場所：元市民会館前広場（公園での取組）

概要：「IBALAB（イバラボ）」は市民会館跡地エリア活用基本構想で示したキーコンセプト「育てる広場」の実現への取組のひとつで、芝生広場づくりから、企画・実施まで市民の方と共に行なう社会実験。

「芝張りワークショップ」や「寄せ植え」、「マルシェ」や「芝生に手作りのこたつを設置」など、様々な取組を実施。この社会実験の結果を参考に今後のエリア整備・活用内容に繋げていく。



こたつに入り読書

③ IBARAKI JAZZ&CLASSIC FESTIVAL (ソシオ茨木・加藤様)

開催日：2018年9月15日(土)

開催場所：ソシオ茨木2階ピロティ、ロサヴィア1階、茨木別院(民間施設での取組)

概要：再開発に向けたエリアマネジメント部会の取組みとして、ジャズとクラシックを中心とした音楽イベントを開催。阪急茨木市駅7商店街連合会をはじめ多くの団体や個人の方に後援・協賛いただき実施。当日は、3,000人以上の方が来場。アンケートでは多くの方に「まちの活性化」や「魅力づくり」に役立つとご意見を頂いた。一方、「会場が狭い」や「ゆっくり座れるスペースが欲しい」とのご意見も頂いた。例年の継続事業にしていきたい。



当日の様子(ソシオ茨木2階ピロティ)

○ 久教授からの講演：エリアマネジメントについて

- ・イベントを実施すれば、たくさんの方がやってくる。これを365日続けていこうとしたときに、どういう魅力が必要か考える上で、イベントは良いきっかけになると思う。
- ・エリアマネジメントは、ハード整備ではなく、イベントをうまく広報することで、ソフトなやり方でまちのイメージアップやブランド力をつけていくこと。そのイベントを誰がどうやっていくかを考えて、みんなで動いていくこと。いつも誰かが何かをやっていくことが楽しさや賑わいを生み出す。
- ・今までは作るということをメインにやってきたが、一方で使うということをきちんとやらないとせっかく作ったものが生きてこない。豊田市の“あそべるとよたプロジェクト”は、空間をつかっても良いというメッセージを出すことで、人が集まり、使われている事例。

○ ワークショップ

【思い描くまちの姿を実現するためにどうしていくのか】をテーマに、「どのような暮らしをしたいのか」「実現するために必要なコト・モノは何か」などについて3グループに分かれ、活発に意見交換をしました。

最後は各グループの代表者に発表いただき、参加者の意見を全員で共有しました。



日常

- ・陽のあたるスポットで休憩したい
- ・日常生活に音楽がある暮らしをしたい。音楽があふれる街
- ・外で音楽を聴いたり、人と会話したりなど、何かをしながら飲食する
- ・コーヒーを飲みながら読書をしたい
- ・ゆっくりコーヒーを飲む休憩場が欲しい
- ・女性などが、ゆっくりランチできる場所が欲しい
- ・駅周辺で買い物がしたい
- ・誰かに薦めたくなるようなお店（飲食・物販等）が増えて欲しい

交流

- ・様々な年代が街中に集まって欲しい
- ・多世代交流のある暮らしがしたい
- ・知らないオッチャンとの関わりが茨木の良さのひとつ
- ・近隣住民と助け合えるまち
- ・色々な人（広場で出会った人、買物客など）と自然と会話が生まれる

賑わい

- ・昔の活気を取り戻したい。チェーン店ではなく、地元店舗が賑わっている
- ・食べ歩きが出来るまち（学生など）
- ・子供がワクワクできる街、楽しめる街になって欲しい
- ・街中で子供・家族と遊べる
- ・若いファミリーがまちを歩く。親子や家族で集まれる飲食店が欲しい
- ・着物を着てまち歩きやイベントをしたい
- ・駅前から茨木の良さを発信したい

活用

- ・ソシオ2階通路を活かしたイベントをしたい
- ・周辺の古い街並みを残したい
- ・歴史とにぎわいにこだわったまちにして欲しい

回遊

- ・歩きやすいまち
- ・街中には商店街や中央公園、元茨木川緑地など魅力的な場所がある。人が集まる駅前を拠点にそこからの回遊性を向上させたい

広場

- ・広場で自由な活動がしたい
- ・広場でバーベキューがしたい。商店街（肉屋や八百屋）で食材が揃う
- ・芝生広場で寝ころびたい
- ・街中の広場や公園でゆっくり過ごせる

日常・交流

- ・ソシオ（駅前）でサークルなどの活動を発表する場所
- ・趣味の教室など人と人とのつながりができる場
- ・多世代交流できる場所（囲碁、将棋、チェス等ができる）
- ・これまでのハコモノ整備から人の活動が生まれるスペースの整備に転換
- ・芝生を張る（“てんしば”のイメージ）⇒寝転がってゆっくりできる
- ・ボール遊びができる場所
- ・にぎわい亭の活用。トイレや駐輪場があり、商店街利用者の活動の場となる

賑わい

- ・各エリアの個性を活かし、商店街や茨木神社をブランド化する
- ・茨木神社の結婚式をPR。商店街にレッドカーペットを敷いてファッションショーを開催。川端康成ゆかりの店をPR
- ・タバコを吸える場所（ルールを守って周りに迷惑をかけない。喫煙ルームは閉鎖的）
- ・茨木の野菜を食べられるお店が増えて欲しい
- ・茨木は商店街のまち（高槻は百貨店）。これを継承していく
- ・イベントと地元店舗のコラボレーション。イベントを通じて地元店舗をPRする
- ・「ガンバ勝った DAY（ガンバ大阪が勝った試合の翌日に商店街の店舗でサービスが受けられる）」を今後も継続する。最近、品物が定型化してきたので、各店舗で工夫が必要

活用・回遊

- ・古民家など古い街並みも残っているので、インスタ映えする場所や仕掛けを作る
- ・市の中心部には茨木神社や商店街などまち歩きすると楽しい場所は既にあるので、駅からそれらの場所に導くような回遊性の構築が必要
- ・中央公園に大学や企業のバス停を移して歩いてもらう。駅前にゆとりのあるスペースを確保する
- ・阪急⇄JR間のループバスの運行。高齢者や子供連れの方が気軽に乗れて、わかりやすい
- ・バス通りを一方通行化してはどうか
- ・まちなかに市民が気軽に行けるように駐輪場を整備

広場

- ・阪急茨木市駅の駅前が開放的な空間となり、駅を降りた人が一目で商店街の場所がわかるようにする
- ・屋上広場（新しい駅前広場のバス停の上）
- ・人が集まる広場。災害拠点となる広場（一時避難や電気供給など）
- ・イベントや休憩など多目的に活用できる広場

※すべてのご意見はご紹介できませんが、上記以外にも様々な意見が出ました。

○ まとめ（久教授より）

今回も色々な提案・意見が出てきたと思う。芝生広場の話が出ましたが、なんばの高島屋前のタクシー待機場は3日間限定で芝生広場が整備された。そうするとヨガをする人など楽しいことが起こった。これをきっかけに現在は本格的に広場を整備する計画が進んでいる。

何か面白いことをやりたいという人は大勢いるので、自分がやらなくてもそういう人を探してくれば、面白い展開が広がる。

一方で、何かをしたい人にとっては場所や賃料など色々なハードルがある。そのハードルを下げていけば、面白いことをやってくれる人が街中にどんどん現れるはず。そのあたりの仕掛けづくりについても意見交換していきたい。



次回の学集会は2019年2月13日(水)19:00～ @ローズ WAM5階

次回は今年度のまちづくり学集会の中間とりまとめを行う予定です。

学集会に参加される方は事前にご連絡ください。

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

第4回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年3月18日 発行

2019年2月13日に「第4回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢14名の方に参加いただきました。

今回のワークショップでは、これまでの学集会で参加者の皆様からいただいた意見や場所などを地図に落とし込み、皆さんが思い描くまちのイメージを具体化し、参加者で共有を図りました。

また、前回に引き続き、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にご参加いただきました。

○ 茨木市中心市街地まちづくりシンポジウムの報告

茨木市より昨年11月18日に開催された「茨木市中心市街地まちづくりシンポジウム～次なる茨木へ。中心市街地と駅前のあり方～」の概要を報告しました。

大阪市立大学・嘉名教授の基調講演の内容やパネルディスカッションに参加したパネリストのまちづくりに対する考え等を紹介し、阪急茨木市駅周辺のまちづくりにも活用できる考え方やアイデアを共有しました。

○ 中間とりまとめ報告

第1回から第3回までの学集会での意見交換やワークショップの中でいただいた皆様からのご意見をとりまとめ、市から中間報告しました。

阪急茨木市駅周辺の現状・課題

- ・ 商店街や駅前に賑わいが不足
- ・ 駅前やまちなかに交流や憩える空間が不足
- ・ 駅と商店街のつながりが不足
- ・ 交通利便性は高いが、交通等に改善が必要

阪急茨木市駅周辺の強み・特徴・資源

- ・ 中心市街地は暮らしやすい
- ・ 魅力的、個性的なお店が増えてきた
- ・ 商店街が多い
- ・ 神社や商店街など、まち歩きができる場所がある

思い描く暮らし・将来のイメージ

- ・ 交流のある暮らし
- ・ 若いファミリーが街中を歩く
- ・ 広場でイベント活動
- ・ 日の当たるスポットでゆっくり過ごす
- ・ 子供がワクワクできる街
- ・ 茨木は商店街のまち

阪急茨木市駅周辺に求められるモノ・コト

商業：ゆっくりできる店舗や家族で利用できる飲食店 / 商店街のまちを継承

施設：交流できる場所、憩える空間 / イベントができる場所、広場

交通：渋滞解消 / 自転車や歩行者の安全な交通空間

景観：古い街並みを残す

協働：地域交流 / 駅～商店街へのつながり

今後の進め方

①まちあるき（JR側のまちの様子を見て、阪急側のまちづくりの検討に活かす）

②ワークショップ（阪急茨木市駅周辺のまちづくりを考える）

③阪急茨木市駅周辺まちづくりイメージを作成

○中間報告に対する講評（久教授より）

もう少し広域的にどういうスポットがあって、どうつないでいけば良いのかを考えていく必要がある。中心市街地の東側に阪急茨木市駅周辺、西側はJR茨木駅周辺、真ん中にシビックゾーンがある。それをつないでいる駅前通りや本通り商店街といった東西軸がある。南北には、さくら通りを中心とした南北軸がある。大きいまちづくりのストーリーを考える中で、それぞれ考えると阪急茨木市駅周辺の特徴が見えてくる。

中間報告のまとめでは、もう少し整理しておかないと、イメージできないところもある。例えば、「家族でご飯が食べられる店」というが、どんな家族かわからない。30代の夫婦と子供が食べる場合と、50代の夫婦と20代になった子供が居酒屋に行く場合で全然スタイルが違う。言葉だけでは見えないところを来年度は深掘りしていかないと、どんなお店がいるとか、どんな空間になっていくのかがイメージできないと思った。ゆっくりできるお店が欲しいという意見もあるが、利用者側はゆっくりしたいが、お店側からすると客の回転が悪くなると儲からない。両者がwin-winの関係になるためには、どういうお店なのかもっと具体的にイメージを共有しておかないと上手くいかない。来年度は、皆でより具体化して共有していけば、いろんなものがもっと具体的に見えてくる。今回は、ある程度のレベルで構わないと思うが、来年度はまだまだ共有しなければならぬ話が残っている。

次回のまちあるきは、JR茨木駅周辺がどのような動きになっているのか、どんな方がどのような使い方をしているのか生で体感していただきたい。そして、阪急茨木市駅は同じようにするのか、あるいは差別化していくのかを来年度考えていきたいと思っている。実際に空間を計画していくので、皆さんにお話いただいたところが一体この場所を言っているのかを空間として押さえていただき、計画・設計に近づけていきたい。地図に落としてみないとわからない事もあるので、そのような事も確認していきたいと思う。

○ ワークショップ

下図はこれまで皆様から頂いた意見を図化したものです。場所がわかる意見は地図に反映し、場所がわからない意見はグループ分けを行っています。今回はこの図を利用し、皆さんの思い描くまちのイメージを具体化しました。最後に各班の代表者に発表頂き、参加者で共有しました。

凡例

- 現状
特徴
課題
- 賑わい
交流
憩い・余暇
利便施設
コンセプト
- 将来像



商店街
商店街が多い
魅力的・個性的な店が増加 (リノベ)
SNSで自分発信のいい店が増加
駅から商店街までがわかりにくい
商店街の高齢化

中心市街地 (阪急茨木市駅周辺) 全体
中心部に駅 (阪急・JR) や商店街、市役所がまとまっている
歴史・自然的資源が多い (プロット部)
イベントが多い
若い世代・子育て世代が増えた
暮らしやすい・住みやすい
地震をきっかけに防災の取組が進んでいる
地元意識が強く、三世代・四世代と仲が良い
かつては、大人なアートを出来る街
休憩・多世代交流などができる多目的に使える場所が少ない
若い人が集まる場所、地域の人が集まる場所がない
駐車場・駐輪場・公共トイレが少ない
地域に密着した子育て支援の施設が不足
茨木市の良さを伝えきれていない
土地が高い・家賃が高い

「ガンバ勝ったDAY」を今後も継続
商店街にレッドカーペットを敷いてファッションショー

日没後のシャッター街→寂しい
商店街の視認性が悪い (駅前ビルが原因)

駅前が寂しい・賑わいがない
イベントができる空間が少ない

駅前を拠点にまちなかに導くような動線
(商店街や茨木神社など魅力的な場所は既にあり)

開放的な駅前
→駅を降りた人が一目で商店街の場所が分かる
駅前イベント・サークル活動の発表の場
屋上広場・芝生広場
広場でバーベキュー (食材は商店街で)

賑わい
多目的に活用できる広場 (イベント・体験など)
若いファミリーがまちを歩く
親子や家族が集まれる飲食店が欲しい
昔の活気を取り戻したい
チェーン店ではなく、地元店舗が賑わう
駅前で購入物したい、中心部に人が集まる
着物を着てまち歩きやイベントをしたい
誰かに薦めたくなくなる店が増えてほしい
食べ歩きが出来るまち (学生など)
インスタ映える場所や仕掛け (吉民家など)
地元の野菜が食べられるお店が増えてほしい

交流
多世代交流ができる場所
様々な世代が街中に集まってほしい
色々な人と自然と会話生まれる
知らない人との関りが茨木の良さ
自分発信の人がたくさん生まれる
趣味の教室など人と人のつながりができる場

利便施設
タバコを吸える場所 (周りに迷惑をかけない)
駐輪場を整備→街中に気軽にに行けるように

憩い・余暇
イベントや体験など多目的に活用できる広場
隣の当たったスポットで体験がしたい
ゆっくりコーヒーを飲む休憩場が欲しい
外で音楽を聞いたり、会話したりなど、何かをしながら飲食
街中で子供・家族と遊べる
趣味の教室など人と人のつながりができる場
ボール遊びができる場所
ゆっくりランチできる場所が欲しい
ボール遊びができる場所
芝生を張る→寝転がってゆっくりできる

コンセプト
多世代交流のある暮らしがしたい
駅や商店街、阪急やJRのつながりがあり、歩きやすいまち
歴史と賑わいにこだわった街にしてほしい
地域交流、近隣住民と助け合えるまち
子供がワクワクできる街・楽しめる街
日常生活に音楽がある暮らし、音楽がある街
周辺の古い街並みを残したい
茨木は商店街のまち、これを継承する (高槻は百貨店)
ハコモノ整備から人の活動が生まれるスペースの整備に転換
各エリアの個性を活かし、商店街や茨木神社をブランド化
北摂地域で働いていい、メディアを介して、アビール合戦

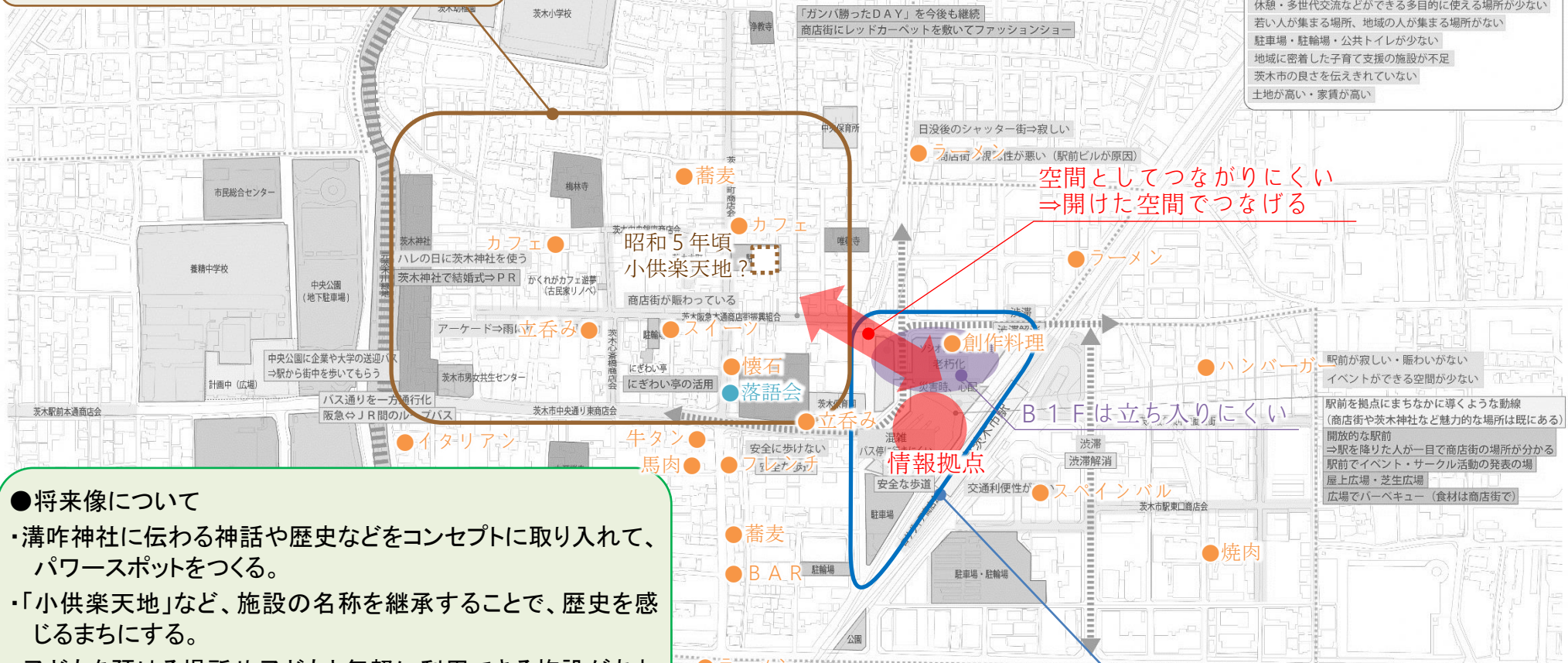


【商店街エリア】

- ・カフェ、スイーツ、蕎麦、立ち飲みなど、魅力的な店舗がある。
- ・昭和5年頃、「小供楽天地」(子供の遊び場?)があった。

●商店街および阪急茨木市駅周辺の現状について

- ・駅周辺には市外からもお客さんが来る飲食の名店が多い。
- ・商店街や飲食店などの賑わいが、空間としてつながっていない。



●将来像について

- ・溝咋神社に伝わる神話や歴史などをコンセプトに取り入れて、パワースポットをつくる。
- ・「小供楽天地」など、施設の名称を継承することで、歴史を感じるまちにする。
- ・子どもを預ける場所や子どもと気軽に利用できる施設があれば子育て中の人がいっぱい買い物をしたり、ゆっくりとまちなかで過ごすことができる。
- ・ソシオの建替えに伴って、周辺商店街や茨木別院など、まちに開かれた空間を整備し、ハードとしてつなぐ。
- ・駅前を情報発信拠点とし、魅力的な名店やまち歩きスポットをソフトでつなぐ。

【駅前エリア】

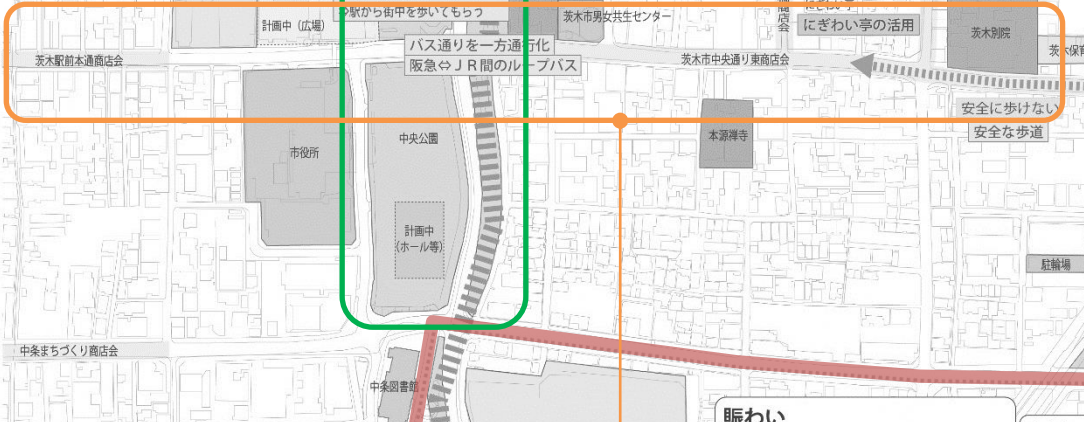
- ・ソシオB1Fにも飲食店の名店があるが、立ち入りにくい。
- ・現状、駅前から駅西口の商店街へのつながりは、ソシオの建物がブラインドになっている。

<p>交流</p> <p>多世代交流ができる場所 様々な世代が街中に集まってほしい 色々な人と自然と会話ができる 知らない人との関りが茨木の良さ 自分発信の人がたくさん生まれる 趣味の教室など人と人のつながりができる場</p>	<p>利便施設</p> <p>タバコを吸える場所(周りに迷惑をかけない) 駐輪場を整備→街中に気軽に行けるように</p>	<p>憩い・余暇</p> <p>イベントや休憩 陽の当たるスポット ゆっくりコーヒーを飲む 外で音楽を聞いた 街中で子供・家族 街中の広場や公園 コーヒーを飲む ゆっくりランチ ボール遊びができる 芝生を張る→夏</p>
--	---	---

- ・元茨木川緑地にて食べ歩きができるといい。行政には給水等のインフラを用意してほしい。
- ・市役所前広場からテニスコートがなくなったのが残念。利用者が多かった。

・託児所が駅前または雨のかからない商店街エリアに増えれば、働く女性に支持される。商店街エリアにあれば商店街での買い物につながるのではないかな。

・若い人が市の中心部に入りやすい(借りやすい)ように、貸主に対し固定資産税の減免等でインセンティブを与え、賃料を下げてもらってはどうか。



- ・車の減る時代に対応し、139号線(東西メイン道路)の歩道を拡幅して賑わいのしつらえをつくってほしい。
- ・阪急～JR間は歩くなら遠い。路線バス代(220円)は往復では高額となり、使う人が少ない。100円バスができれば乗る人が増えるはず。今の220円なら車を使うことになる。

賑わい
 ・多世代交流(イベント・休憩など)が欲しい
 ・人が集まる場所(賑わう)が欲しい
 ・多世代交流(イベント・休憩など)が欲しい
 ・人が集まる場所(賑わう)が欲しい

交流
 ・多世代交流ができる場所
 ・様々な世代が街中に集まってほ
 ・色々な人と自然と会話生まれ
 ・知らない人との関りが茨木の良
 ・自分発信の人がたくさん生まれ
 ・趣味の教室など人と人のつながり

利便施設
 ・タバコを吸える場所(周りに迷惑
 ・駐輪場を整備→街中に気軽に行

- ・駅の東西の通行上のつながりが大切。東西の商店街が分断されないような計画が望ましい。
- ・駅前には広場が欲しい。できれば人工芝の広場と全天候型の広場があればいい。
- ・駅前には高度医療のクリニックモールなどが欲しい。

・地元意識が強く、三世代・四世代と仲が良い
 かつては、大人なデートが出来る街
 ・休憩・多世代交流などができる多目的に使える場所が少ない
 ・若い人が集まる場所、地域の人が集まる場所がない
 ・駐車場・駐輪場・公共トイレが少ない
 ・地域に密着した子育て支援の施設が不足
 ・茨木市の良さを伝えきれていない
 ・土地が高い・家賃が高い

・駅前が寂しい・賑わいがない
 ・イベントができる空間が少ない
 ・駅前を拠点にまちなかに行くような動線
 (商店街や茨木神社など魅力的な場所は既にある)
 ・開放的な駅前
 ・駅を降りた人が一目で商店街の場所が分かる
 ・駅前でイベント・サークル活動の発表の場
 ・屋上広場・芝生広場
 ・広場でバーベキュー(食材は商店街で)

【商店街エリア】

- ・歴史と文化のエリア。
- ・川端康成ゆかりの地など、歴史と文化をどんどんPRすれば、人も集まり、インスタ映えする場所も生まれる。
- ・中心部にこれだけ多くの商店街があることは便利。日用品の買物は駅周辺で揃う。
- ・昼間の商店街の賑わいはある。今後も継続してほしい。
- ・18時以降は店が閉まり、寂しい。

【まちづくり全般に対する意見】

- ・まちづくりのビジョンが欲しい。それを見て意見交換しながら、イメージを膨らませていきたい。
- ・まちづくりのコンセプトは？ターゲットにより、まちづくりの方向性は大きく異なる。

グラウンドの利用率は高い

広場に店ができれば面白い

茨木神社をもっと盛り上げる

子育て世代が使いやすい広場

雰囲気のある建物
(旅館を改装した歯科)

たこ焼き屋・卵屋・うどん屋など、魅力的な店舗あり

20~30年前は高槻からも買物に来ていた

中華などの魅力的な店舗がある

駅前ビルにより駅から商店街が見えない
→商店街を通して中心部に向かう人が少ない？

交通利便性は高いがすぐに目的地に向かう
現状は駅前を素通り→もったいない

【駅前エリア】

- ・来訪者に足を止めてもらうきっかけづくり。
(例:自由に使える広場を整備やイベントを実施など)
- ・駅前には集客もあるので、イベントに向いている。
- ・駅前には、音が出るイベントに向いている。

【中央公園エリア】

- ・バーベキューやボール遊びなど自由に使いたい。
- ・禁止事項が多くなると使いにくい公園になる。
- ・公園がきれいになればお店も集まる。
- ・音楽イベントは周辺住民から苦情がある。

賑わい

目的に活用できる広場(イベント・休憩など)
ファミリーがまちを歩く
子や家族が集まれる飲食店が欲しい
の活気を取り戻したい
メイン店ではなく、地元店舗が賑わう
前で買物がしたい、中心部に人が集まる
物を着てまち歩きやイベントをしたい
かに薦めたくなる店が増えてほしい
歩歩きが出来るまち(学生など)
インスタ映えする場所や仕掛け(古民家など)
元の野菜が食べられるお店が増えてほしい

交流

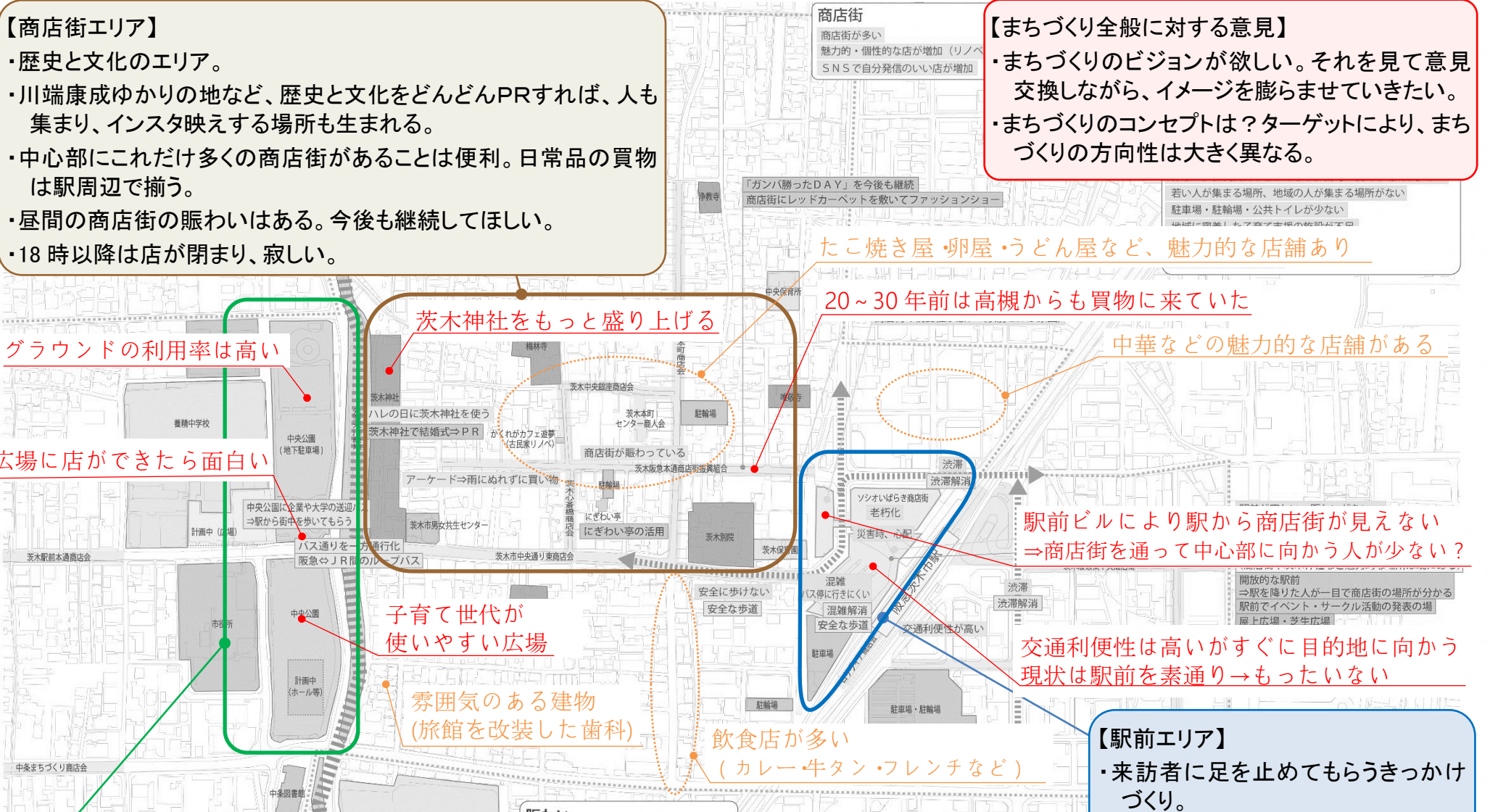
多世代交流ができる場所
様々な世代が街中に集まってほしい
色々な人と自然と会話が生まれる
知らない人との関りが茨木の良さ
自分発信の人がたくさん生まれる
趣味の教室など人と人のつながりができる場

利便施設

タバコを吸える場所(周りに迷惑をかけない)
駐輪場を整備→街中に気軽にに行けるように

憩い・余暇

イベントや休憩など多目的
陽の当たるスポットで休憩
ゆっくりコーヒーを飲む休
外で音楽を聞いたり、会話したり
街中で子供・家族と遊べる
街中の広場や公園でゆっくり
コーヒーを飲みながら読書
ゆっくりランチができる場所
ボール遊びができる場所
芝生を張る→寝転がって休





○ まとめ（久教授より）

皆さんに議論してほしいことは、自分事として「ここをどう使いたいのか」「どういう風にすれば出かけたくなるか」ということ。そこからヒントや手掛かりが得られる。イメージを湧かせて、そのイメージを共有できるかがポイントである。

茨木市外の方と話をすると、茨木市は市民が元気という意見をよく聞く。どこかでいつも誰かが何かをやっていて、市民が文化の種をまいて育てている。市民文化をもっと育てていけるような種の仕掛けや空間作りをやっていくと、もっと茨木らしさが出てくると思う。みんなで大きな方向性を共有し、個々の活動はそれぞれの方が頑張っていくと一定の方向に進んでいく。どの方向に向かっていくのか皆さんと議論したい。

1班では、子育てママさんという話も出たが、今後、色々な方に参加してもらい、自分事として語っていけるような展開を続けていきたいと思う。

○ 次回、まち歩きについて

次回は以下の通り、まち歩きを開催します。JR 茨木駅周辺の街の様子を肌で感じていただき、阪急茨木市駅周辺のまちづくりのヒントを探りたいと思います。

参加ご希望の方は、下記の連絡先にご連絡ください。

【まち歩きについて】

日時：2019年3月30日（土） 10：00～12：00

10時に岩倉公園南側（スターバックスコーヒー前）に集合

概要：岩倉公園や JR 茨木駅東口広場（スカイパレット）などを見学する予定

その他：途中参加、途中退出も可能ですので、お気軽にご参加ください。

参加費は無料です。

詳しくは、別紙【まち歩きのご案内】をご参照ください。

連絡先：茨木市 市街地新生課 担当：三浦、参河（みかわ）

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

第5回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

JR茨木駅周辺まち歩き

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年6月13日 発行

2019年5月11日に「第5回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をまち歩き形式で開催しました。

今回も商店街で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢9名の方に参加いただきました。

今回のまち歩きは、JR茨木駅周辺がどのような動きになっているのか、どのような方がどのような使い方をしているのか体感し、阪急茨木市駅周辺のまちづくりのヒントを探り、考えるきっかけとして実施しました。

また、前回に引き続き、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にご参加いただきました。

○ 岩倉公園・立命館大学・イオン～JR茨木駅

岩倉公園は、立命館大学の開学に合わせて整備された防災公園です。大学との境に塀は無く、大学と一体となった空間が整備されています。

また、公園に隣接する市民開放施設（立命館いばらきフューチャープラザ）にある「まちライブラリー」も見学しました。まちライブラリーは、本を介して人々が出会い交流するコミュニティ型のライブラリーで、会員になれば本に関するイベントを開催でき、会員に限らずイベントに参加できるとの説明がありました。

立命館大学は、「地域に開かれた大学」というコンセプトから、まちライブラリーに運営を委託し、このような取組をしています。

当地区は、周辺の都市計画道路整備が進むとともに、阪急南茨木駅やモノレール宇野駅からの歩行空間や、JR茨木駅からの歩行者専用道路等が整備されたことにより、アクセスが容易になりました。まち歩きでは、都市計画道路茨木松ヶ本線のJRアンダーパスを通り、イオンや、JR茨木駅までのアクセスを実際に歩き確認しました。



岩倉公園



まちライブラリー

○ JR茨木駅東口広場（いばらきスカイパレット）

JR茨木駅東口広場（愛称：いばらきスカイパレット）は、2階にデッキ広場が整備され、イベントスペース（約230㎡）が設けられており、音楽イベントや手作り市、マルシェなどが開催されています。

一方で、デッキ広場の位置づけが道路法上の道路であるため、色々な使用上の制限が有り、利用にあたっては、道路占用許可と道路使用許可の手続きが必要となります。

○ 市民会館跡地エリア

平成 27 年 12 月に閉館した元市民会館を含む周辺エリアの活用については、「市民会館 100 人会議」をはじめとした市民との対話や議論を経て、コンセプトや導入機能・施設構成のイメージを整理しており、キーコンセプトに、「育てる広場」を掲げています。

導入施設は、ホール機能、サードプレイス、普段使いできる交流とにぎわいの空間、子育て支援いばらき版ネウボラ等です。

現在解体中ですが、文化施設だけでなく、芝生広場などの憩いの場も設け、元茨木川緑地や川端康成文学館など自然・文化的要素の南北軸の拠点とし、JRや阪急の中間に位置し、人の移動や活動の中継し、回遊が生まれるような都市的要素の東西軸の交点として、人が集まる場所となること、まちづくりの起点となることを目指しているとの説明がありました。

○ にぎわい亭

にぎわい亭は、平成 13 年度から平成 16 年度までの中心市街地活性化基本計画作成に向けた取組みの中で、平成 15 年に市民による運営のもと、本町商店街に「茨木交流倶楽部」がオープンしていましたが、茨木交流倶楽部の活動は約 3 年半で終え、平成 19 年に新しいまちづくりの拠点として、阪急本通り商店街に、買物客用の駐輪場とイベントスペースや交流サロン、会議室、地域に開放したトイレ等を備えたまちづくり交流ステーションとして、茨木商工会議所によって運営されています。

昨年度は、地震や台風の被害による改修工事のため、利用者が減少しましたが、改修の際に、利用しやすいようレイアウト等を変更したとのことでした。

○ 参加者の感想

- 立命館大学がまちに開かれた大学になり、まちが生まれ変わったことを実感した。阪急茨木市駅前も、老朽化した状態から、まちに開いた場所へ早く変えるべきと感じた。
- 子供が立命館大学に通学しているが、初めて歩いた。
- まちが変わっていた。マンションが増えていてどうなるのかと思った。住居だけでなく、1階にはスーパーなどの施設があるビルは良いと思う。
- 茨木はバス通りと商店街があり、規模は違うが京都の錦市場と四条通りに似ていると思った。錦市場と四条通りのようなイメージで進めていきたい。
- 行ったことがなかった。大学が来たことでここまでまちなみが変わるのかと感じた。JR側とは異なる考えで阪急側は進めなければいけない。
- 改めて歩くと良いまちと感じた。暮らしている感覚と訪問者の感覚にはズレがある。他市町から来た方は茨木に来るとホッとす・落ち着くと言われたことがある。みどりを維持しながらまちづくりを考えていきたい。
- 立命館大学から阪急茨木市駅までは高低差もなく、ゆったりとまち歩きできる。スポット情報を発信すれば、もっと楽しくまち歩きができる。情報発信拠点を設け、市民の方だけでなく他市からの来街者に情報を発信することができればと思った。
- ファミリーや学生、主婦が多くて良かった。商店街にもこういう人が来れば良いまちになる。まちににじみだすことがあれば。スカイパレットは使えるスペースが少ない。茨木神社から商店街までがマンションに変わっていくのかと思った。

- 岩倉公園とイオンをつなぐアンダーパスは、利用している方が多い印象を受けた。アンダーパスの利便性が高いこともあるが、やはり岩倉公園やイオンという拠点があり、人が向かう目的になっていると思った。阪急茨木市駅にも目的性の高い施設を整備し、拠点化を図ることでまちをつなげていければ良いと感じた。
- にぎわい亭は古い建物のリノベーションによって新しい役割を担い、商店街の中での存在意義を示している。
- 本町商店街では、マンションの建て替えが目立っている。阪急側は歴史のあるまちでもあるので、良いものを活かしたまちづくりを考えていければ。



○ まとめ（アドバイザー久教授より）

今日は皆でまち歩きをして、JR側のまちの構造が大きく変わっていることを実感していただいたかった。阪急側の方にJR側を認識していただき、阪急側のまちづくりに活かしていただきたい。次回からは阪急側に議論は戻るが、広域的にどういう拠点があってどうつなげていけば良いか一緒に議論したい。

市中心部にある駅と駅は、程よい距離にある。立命館大学ができる前は阪急南茨木駅からJR茨木駅まで歩く人はいなかったのではないかな。今は、立命館大学で休憩できることで歩くことができるようになった。

立命館大学ができる前は塀のある工場でしたが、もし、大学が塀をしていたら、本日歩いた「まち」にならなかったのではないかな。阪急茨木市駅周辺は拠点となるものであり、まちに開かれているのか、閉じているのか、どのように拡がりをもたせるかを考えないといけない。

新しい市民会館は、中央公園南グランドに建築予定で、立命館大学のように休憩できるような場になるのではないかな。もしかすると、人の動線は中央通りではなく、東西通りがメインになる可能性もある。中央通りの新しい魅力づくりを考えていかないといけない。

本日の参加者からの感想に、新しいビルができる時に、住居だけでなく、1階に店舗等が入って欲しいとの意見があった。それを要望する場合、二つ手段がある。一つは、規制する方法。もう一つは、ビジョンを共有することによって、ゆるやかに誘導する方法。指針のようなものがあればやんわりとまちの姿を示すことができる。学集会でも、そのようなものを一緒に作っていききたい。

また、阪急側は歴史のあるまち。全体のつながりを意識しながら、新しいものや古いもの、歴史的なものを活かして魅力づけすることも大切と思う。

次回の学集会は2019年6月28日(金)19:00～ @ローズWAM5階
学集会にご参加いただける方は事前に下記担当まで、ご連絡ください。
連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、藤岡

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

第6回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年8月5日 発行

2019年6月28日に「第6回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢10名の方に参加いただきました。

今回の学集会では初めに、5月11日に実施した『JR茨木駅周辺まち歩き』等の開催報告と『最近の駅前広場の整備事例』の紹介を行い、参加者で共有しました。

続いて、『どんな駅前が良いか。(拠点の役割とつながり)』をテーマにワークショップを行いました。

また、前回に引き続き、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にご参加いただきました。

○ 最近の駅前広場の整備事例

今回のワークショップのテーマである、『どのような役割があれば駅前がまちの拠点になるのか』『中心市街地のうち、阪急茨木市駅周辺と中央公園等をどのようにつなげれば良いか』を考えるため、阪神尼崎駅北口駅前広場、JR・山陽明石駅南口のあかし市民広場、JR姫路駅北にぎわい交流広場、JR・近鉄天理駅東口駅前広場、JR岸辺駅の北大阪健康医療都市、近鉄郡山駅の駅周辺まちづくり基本計画の事例について、駅前整備の目的やコンセプト、整備後の様子や効果等の事例を共有しました。



明石駅：あかし市民広場
2階屋内広場でイベント実施



姫路駅：キャッスルガーデン
水辺空間が子供の遊び場



天理駅：パークサイドキッチン
地元食材を利用した料理を提供

○ まち歩き開催報告及び事例紹介について講評（久教授）

まち歩き参加者の感想に、JR側は新しいが、阪急側は老朽化しているという意見があった。古さを感じさせない工夫を考える必要がある。ショッピングモールの場合、一つの企業が全体をマネジメントしているが、商店街では、各個店の意見や事情があるため、全体のマネジメントが難しい。そのため、エリアマネジメントの考え方が必要である。常に話し合い、中身が老朽化しているように見えないようエリア全体のことを考え、続けていく工夫が必要である。市民会館建替えの事業者選定では、阪急茨木市駅とJR茨木駅にどうつなげるかが評価基準に挙げられている。設計についても、ワークショップを開催し、市民意見を反映するよう要項が作成されており皆さんにも参加していただきたい。中央公園側は、どのように阪急側とつなげるかを考えている。本地区も中央公園側とどうつなげるかを考えなければならない。

事例紹介にあったあかし市民広場は、観光協会が運営しており、市民広場であるが物産展が多い。これは観光協会と市民活動団体とのネットワークが少ないからである。良い空間を整備しても上手く活用できないともったいないので、誰がどう活用してくれますかと学集会では常に呼びかけている。広場を活用していただける方につなぐ必要がある。

最近では、駅前に大きな広場や公園の空間を整備することは、日本だけでなく、世界中で取り組まれている。駅前にゆったりとした快適な空間を整備し、都市の魅力を示すことで、イベントや活動が生まれ、市民には主体として賑わい作りに参加することを期待している。百貨店等では催事空間で物産系のイベントが多く催されているが、本来は、事を催す空間であり、駅前を催事空間と考えると賑わいが集客につながるのではないか。

本日、JR岸辺駅の健都が事例紹介された。健都はまち全体を「健康と医療」という大きなコンセプトで括っているのが強みである。岸辺はまち全体でコンセプトを出している。茨木はどうするのか考えたい。JR側と阪急側のコンセプトはどうするのか。市民会館や中央公園の中央ゾーンのコンセプトはどうするのか。上手くつなげれば茨木のまちをもっと面白くできるのではないか。

○ ワークショップ

【どんな駅前が良いか】をテーマに「拠点（駅前）の役割」と「拠点のつながり（駅前と中央公園）」について2グループに分かれ意見交換を行いました。

最後は各グループの代表者に発表いただき、参加者の意見を全員で共有しました。

ワークショップで出た主な意見は以下の通りです。



拠点（駅前）の役割

- ・ 緑が多く、色々な活動が生まれるような人が集まる空間（芝生広場）。
- ・ 駅前の広場が起点となり、商店街や市民会館方面に人を導く。
- ・ 自分の活動を発表できる場所。（自分の活動を発表したい人は大勢いる）
- ・ 保育所、小児科、病児保育などの子育て支援
- ・ 多目的な活用ができる空間や子育て支援等を備えた商業の中心。
- ・ 魅力的な商業の立地。
- ・ 駅前通りを意識した駅の顔づくり、つながりが必要。
- ・ 川端康成の像を設置するなど茨木のシンボル空間。
- ・ 駅前居住。（茨木市の中心市街地は人気が高い）
- ・ 中核都市としての駅前づくり。

拠点のつながり（駅前と中央公園）

- ・ 駅と中央公園をつなぐルートは商店街と駅前通りの2つ。商店街は歩行者中心、駅前通りは歩行者と自転車中心。
- ・ 商店街を通れば雨の日でも神社近くまで通行でき、この利便性を活用できないか。
- ・ 中央通りを一方通行化し、自転車や歩行者空間を確保する。
- ・ オシャレなストリートにこそ、オシャレなカフェが出店する。現状の駅前通りはそのような通りになっていない。
- ・ 阪急茨木市駅⇔商店街⇔中央公園のつながりができれば、商店街にも人通りが戻ってきて、賑やかな店舗が出てくるのではないか。
- ・ 阪急茨木市駅に降り立った時に商店街が見えるような駅前になって欲しい。
- ・ 阪急茨木市駅前の再整備が中央公園までのつながりや連携のきっかけになれば良い。

○ まとめ（久教授より）

色々な意見が出たが、勝負は「誰がやるのか」。誰かが動けば色々なことが着実に実現できる。次回以降、「私はこんなことが出来る。私の友達はこのことが出来る。」という動かせる人達が見えてくると実現できるのではないか。前向きな意見を持ち寄っていただければ前に進める。

今回は、自分や仲間が何かやってくれそうな方がいたら連れてきていただき、そういった前向きな意見も出してほしい。

○ アンケート結果

学集会後に駅前の拠点として必要な機能についてアンケートを行いました。

	必要な機能	理由
1位	賑わい (商業施設・交流施設)	駅前には賑わいが似合う、開かれたデザイン 茨木は元々商業で栄えたまち など
2位	憩い (休憩施設・緑地・芝生広場)	のんびりとした茨木のイメージが駅前にほしい、 市民が駅前へ集う理由になる など
3位	子育て支援 (保育施設・遊戯施設)	子育てがしやすい街として人が集まり始めている、 子供連れに気軽に利用してほしい、駅近は便利 など

上記以外では、医療機能や交通機能及び景観機能も必要というご意見がありました。また学集会に対するご意見も頂きましたので、いくつか紹介します。

- ・ 教育従事者や学生、子育て世代の女性の意見も聞きたい。
- ・ ワークショップを通じて、駅～中央公園までの広いエリアで「観る」「聴く」「食べる」など一日楽しめるエリアになればと思った。
- ・ 地元の方の「茨木らしさ」への思いを感じた。
- ・ 駅前広場整備が完成した時に、自分の意見がどこかに取り入れられたらうれしい。

次回の学集会は、日時及び場所が決まりしだいご案内させていただきます。

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:藤岡、三浦

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

第7回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年11月20日 発行

2019年9月26日に「第7回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方、市内で活動されている方など、総勢17名の方に参加いただきました。

今回の学集会では初めに、茨木市内で賑わい創出を目的に、音楽活動をされている木曾様と、芸術活動をされているOne Art Project ディレクターの稲垣様と藤本様に活動内容を紹介いただきました。

続いて、イメージ写真を用いながら『阪急茨木市駅周辺の楽しさや賑わいをイメージしよう』をテーマにワークショップを行いました。

アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にご参加いただきました。

○ 賑わい創出の活動紹介:ジャズライブ(木曾様)

生の音楽を身近に感じてもらおうという目的で、茨木市内をはじめ様々な場所で音楽活動を行っています。活動を通じて考えることは、「行きたい」「居たい」と思ってもらえる場所を作ることです。

「行きたい」と思ってもらえる音楽イベントを開催し、日常や生活のリズムの中に当たり前のように音楽があり、そこに「居たい」と思ってもらえる場づくりに、音楽を介して他の商業者や芸術家の方々と協力して取り組んでいきたいと考えています。「まちなかにもっともっと音楽を」という思いで音楽活動を行っています。



○ 賑わい創出の活動紹介:アートプロジェクト(稲垣様・藤本様)

アートに気軽に出会い、触れていただくきっかけの場を創出することを目的として、このプロジェクトに取り組んでいます。

JR総持寺駅の自由通路では、様々な作家のアート作品を拡大印刷し、それを壁面に貼って作品を紹介しています。また、実物にも触れていただくため、商店街の空き店舗を活用した展示イベントも実施しました。その他にも、アートウォークツアーやアートマップの作成、小学生とのワークショップなど様々な活動を行っています。

最近では、解体中の市民会館の仮囲いに市民の皆さん方の昨日の出来事をしりとりにしたアートプロジェクト(カコイバ)を実施しています。茨木市内で、「まちにアートが溶け込み、文化として根付く」活動を育てていきたいと思っています。



○ 賑わい創出活動について(アドバイザー久教授より)

都市計画家の小林重敬先生は、「①行政によるコントロールの力(規制)、②民間企業によるマーケットの力(市場)、③近隣社会によるコミュニティの力(協働)の3つの方法のうち、今までは①と②が多く利用されてきましたが、これからは③のようにエリアマネジメントの考え方やまちづくり協議会をはじめ、みんなで街を考えて作ったり動かしていくことが重要であると話されています。

これからのまちづくりは、市民との協働により、私たち一人ひとりが街のことを考え、人と繋がることで面白く魅力あるものにしていける時代となっています。

また、Tactical Urbanism という本の中に「Short-term Action for Long-term Change」(長い期間の変化を起こすための短い期間の活動)という言葉があります。木曾さんや稲垣さん・藤本さんの活動は、1日限りの取組みから数か月単位の取組みまであり、たとえ短い期間のものであっても何回も繰り返し、日常化することにより街が変わっていき、みんなで街を楽しくし、居心地の良い空間にする活動です。このような活動をこれからも続けていただきたいと思っています。

そのためには場所とお金が必要ですが、みんなで少しずつ出し合ったら色々な面白いことができるかもしれません。誰かを頼りにするのではなく、みんなで少しずつ力を出し合いながら動かしていけるような試みができたら良いと思います。

阪急茨木市駅西口は再整備で街が動こうとしていますが、空間だけ作っても面白くならないため、「こういう空間があればこういう事ができる。逆にこんなことをやりたいからこういう空間が欲しい。」というような話を行ってきました。活動と空間の関係について、グループワークで色々なアイデアを出していただき、市や私たちが少しでも形にしていければと思っています。

○ ワークショップ

【阪急茨木市駅周辺の楽しさや賑わいをイメージしよう】をテーマに、参加者にイメージ写真を見ながら「どこで」「誰が」「どのように活動し過ごしているか」など、駅前や商店街等のまちの様子を具体的にイメージしていただき、意見交換を行いました。

最後は各グループの代表者に発表いただき、参加者の意見を全員で共有しました。

ワークショップで出た主な意見は以下の通りです。

(賑わい) 生活にうるおいを与える魅力的な店舗



【駅前】

- ・記念日や仕事帰りに遅くまで利用できるカフェや飲食店。

【商店街】

- ・友人や知人と楽しく会食、買い物など生活の中で飲食できるお店。
- ・惣菜など持ち帰りできる手ごろな値段のお店。



【駅前・商店街】

- ・シニア世代がちょっとカッコつけられる、大人がデートできるお洒落なお店。昼前から飲食できるお店。商談後にジャズを聞きながら飲食を楽しめるお店。
- ・神戸にはジャズライブレストランがあり、ゆっくり音楽を聴きながら飲食を楽しめる。ミュージックチャージも安く、多世代の方に利用されている。修学旅行生も訪れ、プロの音楽に触れる機会を得て、大人になって再訪する人もいる。ブランド力があり、お客・ミュージシャン・店舗にとって良い関係性を築けている。

(賑わい) 日常と非日常に出会える屋内広場



【駅前】

- ・天候に関わらず、音楽やダンス、演劇や非日常が味わえるイベントができる。
- ・イベントがないとき、ゆっくり飲食できる憩いの広場。



【駅前・商店街】

- ・子供を見ながらゆっくりできる遊具のある広場。
- ・音楽を聴いてリラックス。カフェが楽しめ発表会や販売などができる広場。

(賑わい) キッチンカー等による賑わいや回遊性の創出



【駅前・商店街】

- ・キッチンカーの色々なお店があれば、働いている人も駅前を訪れた人も楽しみながら利用でき、ランチが楽しめ賑わいも生まれる。
- ・年齢に関係なく利用できる。
- ・市役所周辺は飲食店が少なく、需要があるのでは。

(憩い) 自然を感じられ思い思いに過ごせる屋外広場



【駅前】

- ・駅と商店街が1本の通路でつながり、通路沿いに広場がある、そんな空間がいい。
- ・駅前は敷地が限られているので、駅前再整備でビル屋上に芝生広場がほしい。例えば、星空を観る企画をすれば幅広い世代が交流できる。都市に居ながら憩いを感じられる。



【駅前・商店街】

- ・広場を利用する各人が季節を感じたり、休憩や読書、イベントに参加。音楽鑑賞や音楽を奏でる、友人との待ち合わせなど、思い思いに広場で過ごす。

(憩い) 駅前や商店街での魅力ある憩いの空間



【駅前】

- ・お茶を飲んだり休憩。
- ・駅前広場でライブ音楽などを聴く場所。



【商店街】

- ・学校帰りに買い食いや遊べる場所。・買い物途中で休憩できる場所。
- ・商店がお休みの時に1日楽しみながら趣味の販売ができる場所。
- ・アーティストにより、商店街のシャッターにアートを施すと閉店後の賑わいが生まれる。さらにそのアートが隣のシャッターに連なりドラマ（ストーリー）になると面白い。
- ・まち中で音楽を演奏しながら気軽に楽しめるミニイベント。



【駅前・商店街】

- ・買い物などの目的がなくても、お話ししたり休憩できる場所。
- ・就学児童以上の子供たちが交流し、遊んだり安らげる場所。
- ・歩くだけで気分が良くなる。時間や季節を意識できる場所。
- ・商店街を歩いていると疲れる。イスや机のある休憩所があれば利用者は多い。併せて隣でバザーやマルシェができたり、出店料が無料であれば高齢者でも出店できる。



(子育て) 地域ぐるみの子育て支援



【商店街】

- ・子育てサロンで放課後や休日にお手伝いや子供用のイベント。



【駅前・商店街】

- ・未就学だけでなく、もう少し幅広い年代が利用できる街中カフェや子供用のイベント。

(景観) おしゃれな統一感のある街並み



【統一感のある街並み】

- ・観光客が訪れ、歩くだけでも楽しくなる街並みを買ひ物しながら散策。

【駅前に緑豊かな空間】

- ・憩いや飲食ができる空間。
- ・園のお散歩でいけるような空間。



【おしゃれな商店の街並み】

- ・カフェ、雑貨めぐりや服などのショッピング、歩くだけで気分が良くなる街並み。



○ まとめ(アドバイザー久教授より)

多様な人が多様な活動を行うとそこが楽しい場所や空間になります。例えば、みんなでワイワイしたい人もいるし、一人でゆったりしたい人もいます。両方ともできる仕掛けを考えることは、空間デザイナーというプロの役割です。場所を作るという意味の「Place making」が、世界中に広がっています。皆さんの想いをどのように実現するか、場所をどう使うかなど使い方の可能性を仕掛けるのは専門家ですが、デザインするには皆さんの意見を聞かないとできません。皆さんの意見を存分に聞かせていただき、それを空間デザインに落とし込んでいくのは、もう少し後で良いのではないかと思います。

今日のゲスト3人に共通していることはクリエイティブな仕事をされていて、常に何ができるかを考え、それを実現させる技術をお持ちなのだと思います。このようにクリエイティブな仕事をしている方だけではなく、市民の皆さんも自分はこのことができる、こうしたいということをも自分でできるとすごい力になると思います。

私はささやかだけどこんなことができる、これなら一緒にできるなどを次回に持ち寄っていただけたら実現にどんどん近づいていくと思います。

今後の学集会は、令和元年 11 月 26 日(火) 19:00~21:00

茨木市市民総合センター(クリエイトセンター) 3 階 303 号室

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

第8回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2020年2月7日 発行

2019年11月26日に「第8回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」を茨木市市民総合センター(クリエイトセンター)にて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢12名の方に参加いただきました。

今回の学集会では、前回ワークショップの内容を深めることを目的に、「阪急茨木市駅周辺の賑わいや憩いのイメージを深めよう」をテーマに、ワークショップを行いました。

○ ワークショップ

『阪急茨木市駅周辺の賑わいや憩いのイメージを深めよう』をテーマに、前回のワークショップで出た意見を共有した後に、JR茨木駅周辺や市民会館跡地エリアとの違いや、人の動き・流れ(回遊性)、自分達の実現できる取組みを考えることを意識しながら意見交換を行いました。最後は各グループの代表者に発表頂き、参加者の意見を全員で共有しました。ワークショップで出た主な意見は以下の通りです。



1班

【基本的な考え方】

子育て世代、若者、大人などの全世代の人に対して、これまで地域に無かった新しい機能を付加し、魅力を増やすことによりまちが生まれ変わる(まちなかりボーン)。

(駅前取組みイメージ)

- ・ 屋内のイベント広場や園庭の充実した保育園、魅力的な店舗などを備えた都市のコアが必要。

(商店街取組みイメージ)

- ・ にぎわいの中心が本通商店街になるよう歩行者専用道路化し、テーブルやイスを置き、ナイトバザールや音楽などのイベントを開催。
- ・ 茨木にぎわい亭と駐輪場に高齢者や大人向けのにぎわい拠点をつくる。

(中央通り取組みイメージ)

- ・ 一方通行化により歩道を広げ、元茨木川緑地と連動したアートと緑の拠点づくりを行い、幅広い魅力のあるエリアにしたい。



2班

【基本的な考え方】

駅前を中心市街地に開かれた空間にし、まちの資源や生活者の視点を大切に、色々なルートで元茨木川緑地までの回遊性を創出する。

(駅前取組みイメージ)

- ・まちの案内所を設置し、魅力発信。
- ・ジャズイベントの開催やサークル活動など多目的な活動ができる屋内イベント広場が必要。

(商店街取組みイメージ)

- ・人を呼ぶ仕掛けとして、歩きたくなる目立つフラッグなどが必要。商店街で利用できるカートを設置し、買い物の利便性向上。

商店街は生活者の視点（生活者が必要とするものがある）がコンセプト。

- ・資源である古民家を再生し、面で魅力づくりを行う。

(中央通り取組みイメージ)

- ・一方通行化し、ループバスを走らせ、歩行者が快適に通行できる空間を整備。おしゃれな通りにすることで、魅力的なお店を出したくなる通りにしたい。



3班

【基本的な考え方】

地域にあるものを活かし、商店街に人を導く。駅前是人が集まる拠点になり、商店街は人を誘うワクワク感や賑わいを創出し、駅前から中央公園までをつなげる。

(駅前取組みイメージ)

- ・イベントが開催できるデッキを作り、デッキから商店街に人を導く。

(商店街取組みイメージ)

- ・魅力的な店舗やアーケードを屋内広場にみたくて、様々なイベントを実施し商店街の魅力を発信。
- ・子どもや高齢者が利用でき、拠り所となる店舗などを商店街に設ける。
- ・外に開いている店舗は利用者がワクワクする。

(中央通り取組みイメージ)

- ・期間限定で歩行者天国にし、キッチンカーを並べるイベントを開催。市民会館跡地エリアや元茨木川緑地にもキッチンカーを並べて飲食できると中心市街地に人が来て回遊性が生まれる。市の隠れた名店がキッチンカーを出すことで店のPRにもなる。
- ・イベント時は、まちづくりを実践する人の手伝いも必要。



次回の学集会は、令和2年2月13日(木)19:00~21:00@ローズWAM 5階

申込先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

第9回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2020年3月30日発行

2020年2月13日に「第9回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢15名の方に参加いただきました。

今回の学集会ではまちづくり学集会において頂戴した意見をまとめるにあたり、事務局から学集会まとめ(案)と、阪急茨木市駅西口駅前周辺整備に関する取り組みについて説明がありました。その後、参加者でまちづくり学集会まとめ(案)等について、議論を行いました。

○ まちづくり学集会のまとめ(案)

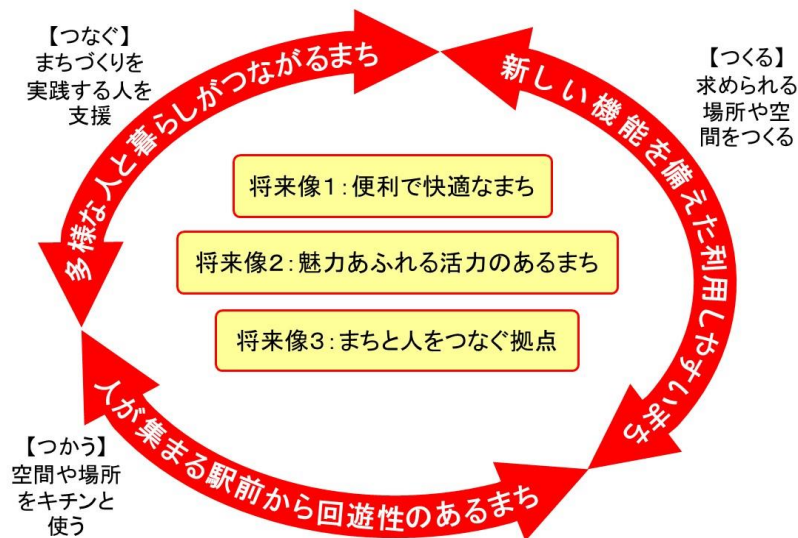
まちづくり学集会は2018年8月から今回を含めて計9回行ってきました。阪急茨木市駅周辺のまちの特徴や課題、将来像、賑わいや憩いのイメージの共有など、主にワークショップ形式により参加者から貴重なご意見を頂戴いたしました。以下はそのまとめ(案)の一部です。

● まちの現状・課題と将来に向けたまちへの想い

	現状・課題	将来に向けたまちへの想い
① 機能	<ul style="list-style-type: none">● 中心市街地に交通機能や市役所、商店街等が集約され、生活利便性は高い● 一方で道路渋滞や分かりにくいバス乗り場など、交通改善が必要● 若い人や地域住民が集まる場所、子どもが遊べる場所などが不足	<ul style="list-style-type: none">● 交通環境の改善により、歩行者や車両の安全性・利便性の向上● 休憩・多世代交流・イベント開催など多目的に活用できる空間の創出● 憩いや賑わい、子育て等に必要な機能の確保
② 商業	<ul style="list-style-type: none">● 中心市街地の人口は増加しており、イベントをすれば人は集まる● 魅力的・個性的な店舗が不足● 商店街店主の高齢化、閉店時間が早い、休憩場所が少ない等、商業の中心地としての賑わいや魅力が低下	<ul style="list-style-type: none">● 歩いて楽しいまちづくりの演出など全体のマネジメントによる回遊性の向上● 魅力的・個性的な店舗が多い商店街などの商業地域があるまち
③ つなが	<ul style="list-style-type: none">● 市民力が高く、イベントが多い● 一方で組織ごとの横の繋がりは不足● 駅前から中央公園までのつながりが不足● 駅から商店街への経路も分かりにくく、駅と商店街のつながりが不足	<ul style="list-style-type: none">● 駅から中央公園までの動線である商店街や中央通りで多様な活動ができる場所があり、地域交流や住民等とのネットワークにより、自分発信の人が生まれるなど、まちと人、人と人、人と活動がつながるまち

地域や暮らしをより良くするためには多様な方が力を合わせ、
同じ方向性で取り組むことが重要

●まちづくり学集会で考える阪急茨木市駅周辺のまちの将来像



●まちの将来像を実現するために必要な機能

必要な機能	将来イメージ
憩い	<p>自然を感じられ思い思いに過ごせる広場</p> <ul style="list-style-type: none"> 広場を利用する各人が季節を感じたり、休憩、読書、イベント参加、音楽鑑賞、友人との待ち合わせなど、思い思いに過ごす広場 歩くだけで気分が良くなる・楽しくなる街並み 駅と商店街の動線沿いやビル屋上に広場（芝生）があると良い など
賑わい	<p>生活に潤いを与える魅力的な空間</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念日や仕事帰りに遅くまで利用できるカフェや飲食店 シニア世代がちょっとカッコつけられる、大人がデートできるお洒落なお店 天候に関わらず音楽やダンス等のイベントが開催できる屋内広場 イベントがなくても飲食等の利用ができる広場 など
子育て	<p>地域ぐるみの子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢の子ども（未就学児～小学生）と一緒に利用できるカフェ 子育てサロン等で学生が放課後や休日のお手伝い、子ども用イベント開催 子どもが急に病気になった時でも対応できる施設（病児保育など） 託児所付きの施設（レストラン・美容室など） など

○まちづくり学集会まとめ（案）に対する久教授からのアドバイス

- 彦根では、「100の愚痴より10の提案、10の提案より1の実行」を合言葉にしている。できること、できそうなことについて、実行主体を意識しながら検討することが重要。
- 商店街のまちづくりは、一社でマネジメントする商業施設とは異なり、多くの方が関わっているため、皆が同じ方向に向かっているか確認しながら進めていく必要がある。
- 茨木は消費するまちではなく、創造していくまち。キッチンカーや古い物件活用等、色々な人がチャレンジできるクリエイティブな仕掛け・装置をまちに組み込む必要がある。

○ 意見交換

2つのグループに分かれ、まちづくり学集会まとめ（案）や久教授からのアドバイスなどに対する意見交換を行いました。最後は各グループの代表者に発表していただき、参加者の意見を全員で共有しました。主な意見は以下の通りです。

茨木の魅力

- 「バイローカル」というキーワードが出たが、友人と話していても、茨木の店舗情報があまり知られていないと感じることが多い。もっとPRが必要。
- 茨木には魅力が点在している。その魅力をつないでいくことが重要。ウォークアブルシティにもつながる。
- 茨木は教育面の評価が高く、市外からの流入も多いと聞く。これは茨木の強み。

まちづくりの実行主体・チャレンジ

- 「誰がやるのか」「意識の共有化」が大切と思う。
- 地域の方がまちなかでやりたいことをやる。それをうまく見せれば、若い学生や新しく住む人にも連鎖し、継続したまちづくりになる。
- 商店街には空き店舗が点在している。利用上の課題（家賃、大家との意思疎通など）が解決すれば、活用したい人は現れる。特に、若い人がそこを活用すると、若い人（客）が集まり、好循環が生まれる。最初は小さなチャレンジからが良い。
- 商店街の空き店舗など情報のネットワークを作り、新しいことにチャレンジしたい人に提供できないか。期間限定の少額家賃の小区画ブースでも、賑わいが生まれる。

まちづくりの方向性・将来イメージ

- 将来像を実現するために必要な機能「憩い」「賑わい」「子育て」は共感できる。
- 駅周辺は、女性や子育て世代が自然と集まるまちをコンセプトに、病児保育など必要な機能を整備すると茨木の魅力になる。
- 将来イメージ（30年後のまち）は「誰目線で考えるか（自分・子ども達等）」で方針も変わってくる。
- 将来イメージ図のように、駅前や中心市街地に子育て世代など多世代が集まり、楽しんで暮らしたい。

○ 久教授からの講評

- まちづくりは活動の積み重ね。ポジティブにやり方や規模など実践できる方法を考えてほしい。それが色々なことの実現に向かっていくと思う。
- 茨木のまちなかの特徴は多様性。幅広い世代が利用し、店舗や住居があり、働く人もいる。この多様な要素を活かし、複合的につながっていくともっと魅力的になると思う。

次回の学集会は【未定】です。（コロナウイルス感染拡大防止に向け市主催のイベントを延期しているため。）

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

第10回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2020年8月3日 発行

2020年6月25日に「第10回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」を茨木市福祉文化会館にて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢10名の方に参加いただきました。

今回の学集会が最終回であることから、これまで議論した内容を皆さんと共有し、アドバイザーである久教授からの講評、参加いただいた皆さんからの感想等を頂きました。

○ これまで議論した内容の共有

学集会のまとめとして、阪急茨木市駅周辺の特徴や課題、将来像、必要な機能等について、参加いただいた皆さんのご意見をまとめた内容を共有し、学集会等の意見を基に作成した阪急茨木市駅前将来イメージ（概ね30年後の姿）を参加者と共有しました。



将来イメージ（まちづくり学集会参加者の「One Art Project 稲垣様、藤本様」のご協力を得て作成）

○ 久教授からの講評

昨今のコロナウイルスへの対応が、今回皆さんで議論した内容を実現する追い風になるのではないかと考えています。私が勤める大学では、ある質問が SNS 上に投稿されると、それに対し誰かが回答するといったプラットフォームが構築されるなど、情報交換が頻繁に行われています。このようなプラットフォームをまちづくりにも活用し、情報交換や人とのつながりを構築することができれば、皆さんの思うまちづくりが進んでいくと思います。以前ご紹介した彦根市の花しょうぶ通り商店街のキャッチフレーズ「100の

愚痴より 10 の提案、10 の提案より 1 の実行」のように、自分にできることはないかをぜひ考えてみていただきたいです。エリックバーンの言葉に「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」というのがあります。未来をどうしたいかを考え、皆さんで共有していただきたいと思います。

○ 参加者からの感想など

コロナ禍を経験し、人と人が話すことが重要と感じた。まちづくり学集会で議論した内容が実現できれば、良いまちができると思います。

コロナ禍を機に、イーバーイーツ等でデリバリーやテイクアウトに挑戦するお店が増え、SNS を活用し営業できました。他にもイベントに不参加だった店舗がイーバーイーツに加わる等、新しいツールに取り組んでいただけました。次、どのようにまちは変わっていくのか、今回のまちづくりの方向性はすごく良いと思います。

将来イメージを作成させていただきましたが、皆様のご意見をイメージ化することは難しい事ですが、非常に大事なことだと思いました。日々の積み重ねで 30 年後がやって来ます。この絵が 30 年後どんなふうに見えるか楽しみに思いました。

30 年前も今も 30 年後も人と人のつながりが有るか無いかでまちの活気は違うと思います。意見を聞くことが難しい人達の声を聞き入れ、まちに入れ込むことができれば、まちが色々な人にとって発展していける要素になると思います。

商店街はコロナ後、客足が徐々に戻ってきた。
商店街も生まれ変わっていきたい。

茨木でもまちづくり会社が立ち上がった。
行動することで未来を変えていきたい。



紙面の関係上、主な意見を記載しております。

○ 久教授の総括

今後の展開に向けたお話をさせていただきます。

変わりたいけれど変わらない人には支援が必要で、そのような仕組みがイーバーイーツでした。市やその他のお手伝いできる人がこれからも手を差し伸べる必要があります。

今回の将来イメージは、学集会として、車が無い歩行者優先の空間を作りたいということ投げかけました。後は実現に向け、進めていく中でどこまでできるかが勝負だと思えます。計画する際、私達がどのように使いたいのか、そのために必要な広さ、デザインを決めるという流れによってふさわしい空間ができます。人の姿を描くことによってどのような行動を実現したいかが共有できます。将来イメージは「こういう使い方をしたい」という皆さんの想いを表現しました。今後、具体的な絵が私達の想いにどれだけ近づいているのか、意見交換できる場をできるだけ多く作っていただければと期待しております。

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp